

トーゴ共和国Attikope村の教育支援事業最終報告書

2021年6月18日
宮崎大学 金岡研究室
一般社団法人日本トーゴ友好協会

2020年9月、東京オリンピックパラリンピック・ホストタウン事業での連携をさらに強化するため、宮崎県日向市・駐日トーゴ大使館・一般社団法人日本トーゴ友好協会との3者による相互協力協定締結式が行われました。式典で発表したトーゴ共和国における教育支援事業の「安全な水供給事業（井戸修復）」「トイレ整備」を現地のNPO法人SDD-TOGO (Laurent Dakey代表) が担当し、「図書寄贈」をNPO法人クラブ・リテラル (Steve Bodjona代表・前駐日トーゴ共和国大使) が担当、2021年5月末に全て終了しました。

総予算は51万円で、ドナーは宮崎県日向市と宮崎アカデミーロータリークラブ (RI第2730地区)、事業の管理は一般社団法人日本トーゴ友好協会と宮崎大学金岡研究室が行いました。

1. 安全な水供給事業（井戸修復）・トイレ整備事業報告（報告者：NPO法人SDD-TOGO）

NPO法人SDD-TOGOは Lome-Kpalime国道のアサウンからほど遠くないAttitekope (アティテコペ) 村 (人口約500人) の井戸を修復し、2つのECOSANトイレの整備を行いました。Attitekope村はトーゴ共和国の首都ロメから62キロ離れた場所に位置しています。

このプロジェクトは日本のドナーである宮崎県日向市、宮崎アカデミーロータリークラブ及び協力者の一般社団法人日本トーゴ友好協会、宮崎大学金岡研究室のおかげで実施されました。

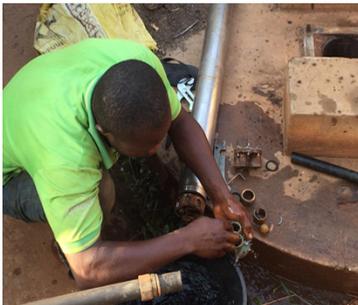
井戸掘削の費用 : 474700fcfa (723ユーロ)

トイレ建設の費用 : 554000fcfa (834ユーロ)

総費用 : 1,028,700fcfa (1557ユーロ)、日本円200,000円

SDD-TOGOメンバーとの友好関係により、村の委員会は井戸の掘削の失敗によって出来た穴の修復、そしてトイレの必要性について意見が一致しました。

修理を開始するにあたって、私たちは壊れた部品を取り除き部品を購入し交換する必要があり、井戸の全ての部品を取り出しました。村の住民、特に若者たちは、技術者の修理を手伝いました。このプロジェクトの2段階目は井戸を守るための防壁設置と排水管作りを行いました。



このプロジェクトの3段階目は同じ村にECOSANタイプのトイレ2基を整備することです。このトイレは糞便と尿を分別することを目的として作られました。この分解された尿と糞便は土壌を肥やすために使用されています。

この作業は住民の積極的な参加のおかげでうまくいきました。予想していたよりも作業は困難でした。

村での葬式が原因で事業の中断もあり、プロジェクトは2020年12月15日に開始され完了までに2か月かかりました。



村のすべての住民は私たちが行った仕事、寄付者、そして正しい決定がなされた事など、最後の会議で参加者は非常に満足していました。中部には多くの村があり、これらのプロジェクトの実現を見た多くの村は同じニーズがあるため自分達の村も支援してほしいと望んでいます。



「トーゴ共和国アティテコベ村での井戸修復事業・トイレ整備事業」のアティテコベ村の村長などからの感謝のメッセージ動画
<https://youtu.be/Ci141Yf9TfQ>



修理作業の最後に井戸とトイレの適切な管理方法について話し合い、委員会を設置するミーティングがありました。この委員会は、村長、村長が指名した人、議会のメンバー、村の若者、SDD-TOGOにより構成されています。彼らは祈りの儀式を行い日本のドナーとSDD-TOGOに感謝しています。



2. 図書寄贈事業報告（報告者：NPO法人クラブ・リテラル）

NPO法人クラブ・リテラル（Le Littéraire）（以下、クラブという）は、本と読書を促進する非営利団体です。2014年以来、クラブは本を寄付したり図書館を作ったりすることで、遠隔地の学校を支援するためのいくつかの活動を行います。また、創造するための図書館がない遠隔地の村の保護者やさまざまな機関からの要請を頻繁に受理します。クラブは、トーゴの作家を宣伝するために、毎年恒例のブックフェア、読書コンテスト、学校設備プログラム、読書啓発プログラムと他の多くの信用活動を行います。

クラブは幼い頃から未来が準備されていることを知っており、読書啓発プログラムを含む子ども向けのいくつかの活動を開始しました。

実際、早期読書プログラムは主に小中学生を対象としています。各レベルを考慮して、小学校での読書と発音の授業を提供しています。これにより、プログラムに参加している子どもたちのレベルのギャップを特定し、これらのギャップを修正する適切な方法を見つけることができます。中学校の場合、プログラムは、彼らが読んだものについて良い批判的思考を持ち、彼らの中で優れたライティングスキルを構築するのを助けるために構成されています。

本事業は、クラブの学校設備プログラムの一部であり、2014年以来、木更津ライオンズクラブ（2014）や宝塚武庫川ロータリークラブ（2014）などのさまざまなパートナーの支援がありました。全国各地の学校の教科書などの資料の提供を求める声が高まっており、これらのすべての要望に応え、それぞれの学生の幸福の為に必要な本を提供したいと考えています。

本事業の総予算は335,000円：本は315,000円、物流は20,000円です。（内約35,000円はクラブ・リテラルが負担）

本事業の実施は、日向市と宮崎アカデミーロータリークラブから30万円の支援を受けており、クラブは小学校2校、中学校1校、図書館1館に対して、図書合計614冊を約3,000人の児童に支援することができました。

4箇所への寄付の詳細は以下の通りです。

1. Kebodzigbe小学校への寄付（2020年12月20日）

Plateaux地区のAgou県に位置している。この小学校はKebodzigbe村唯一の小学校で500人の生徒がいます。232冊の教材のために10万円の予算が割り当てられました。



2. Game-Lili中学校への寄付（2021年6月9日）

この中学校はmaritime地域のGame-Lili村にあり、約200名の生徒がいます。118冊の教材のために7万5千円の予算が割り当てられました。



3. Noepe小学校への寄付（2021年5月21日）

maritime地域のKeve県に位置し250人程の生徒がいます。120冊の教材のために6万5千円の予算が割り当てられました。



4. Sotouboua図書館への寄贈（2021年6月6日）

この図書館は中央地区のSotouboua市にある唯一の小、中、高校生が本を借りられる図書館です。144冊の図書のために7万5千円の予算が割り当てられました。

